

第1学年 道徳学習指導案

1 主題名 自分らしく生きる

1-(5)自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

資料名 ロールプレイをして考えてみよう！（B 社会的・役割的性差意識の解消）
久留米市男女共同参画教育副読本（中学校用）「ともに生きる」より

2 指導観

- 本学級の生徒は女子20名男子19名で構成される。事前アンケートによると「男女それぞれに向けた仕事はあるか」の項目には女子80%、男子45%があると答えている。その仕事内容は、女性は力を使わない仕事やファッション関係、幼稚園の先生等が挙げた。男性は、力仕事（大工等）の答えが多かった。また、「女の子なのだから」や「男の子なのだから」と言われたことがあるかの質問には、女子58%、男子40%の生徒が言われた経験があると答えている。その内容は、「女の子だから手伝いしなさい」「女のくせにそんな言葉を使うな」「男のくせに泣くな」などである。生徒達が、日常生活の中で何気なくつかっていることばにも「男のくせに・・・」などのことばが見うけられる。中学生期は、心身の変化が最も著しく現れる時期であり、人格の形成において重要な位置を占めている。この時期に男性として女性としての自己を受け止めるとともに、お互いの性差を意識しながらそれぞれのよさを認め合うことは意義深い。
- 一人一人の人間は姿や形が違うように、人それぞれには必ずその人固有のよさがある。その個性を生かし伸ばしていくことは、人間の生涯をかけての課題でもある。
また、男女共同参画教育とは、男女が社会の対等な構成員として自らの意志によって、社会のあらゆる分野の活動に参画する機会が確保され、お互いに政治的、経済的、社会的及び文化的利益を受けることができ、かつ、共に責任を担う社会の実現をめざす教育をいう。「社会的・役割的性差」とは、礼儀作法や生活・仕事に関する行動、役割の男女の違いのことである。そこで、この学習を通して、男女がお互いの性差を正しく理解し、一人一人の個性を尊重することが大切であると考ええる。
- 本主題の指導にあたっては、事前に久留米市男女共同参画教育副読本（中学校用）「ともに生きる」に掲載されている「ロールプレイをして考えよう！」の親子会話を例にしてロールプレイをさせ、社会の中に浸透している性別役割分業や固定した男女観に気付かせる。そして、日常のふとした場面や会話の中にも同じようなものがないか考えさせる。本時では、性別役割分業の場面を男女逆転して演じさせたり、DVD「CHANGE！」を見せたりして、日常の自分を重ね合わせて考えさせ、自分らしく生きることへの考えを深める。そして、感想の交流する中で、友だちの考えに共感し、いろいろな考え方があることを学び認め合わせる。その過程において、互いの個性を尊重し、自分らしく生きていきたいという展望を持たせる。

3 計画（2時間+課外）

- ① 副読本資料「ロールプレイをして考えよう」について考えさせ、固定的な男女観や性別役割分業について話し合わせる。 (1)
- ② 各班で日頃の生活の中の似たような例を考えさせる。 (事前)
- ③ 班でつくった生活の中の例をもとに、固定的な性別役割分業の考え方に縛られることなく、自分らしく生きていきたいという展望について話し合わせる。 (1)本時

4 主眼

身近な会話の中にある固定化された男性観・女性観や生活の中に浸透している性別役割分業のおかしさに気づき、個性として自分らしさを追求しようとする態度を育てる。

5 準備 学習プリント、DVD「CHANGE!」、難民少女の詩「わたしの夢」

6 本時の過程

段階	学習活動と内容	教師の支援・援助	配時	形態
導入	1 事前の学習を振り返り、男女の見方について考える方向性をつかむ。	○ ロールプレイをしたことや班で考えたことを想起させ、本時学習の方向をとらえさせる。	5	一斉
	男だから女だからにとらわれずに、自分らしく生きること を考えよう。			
展開	2 班の代表（2班）が、例題を男女の逆バージョンで演じてみて、固定的な男女観や性別役割分業のおかしさ（男は仕事、女は家事等）について話し合う。 ・実際によく聞く会話である。 ・男女に分ける必要のないものがある。	○ 班が考えた例や例題を書いたプリントを配布して、男女の見方に気付かせる。 ○ 男女の見方という視点から気付いたことを出させ、身近な問題としてとらえさせる。	20	一斉 小集団
	3 DVD「CHANGE!」の同じ中学生が考え演じた作品を見て、自分らしく生きることへの考え方を深める。	○ DVDを見せて同じ中学生が問題意識をもって取り組んでいることに気付かせる。	10	一斉
	4 感想を書いたり、教師の話を書いたりして、自己を見つめ、自分らしく生きることへの考え方を深める。	○ 「自分らしく生きる」ということを視点にして書かせる。 ○ 教師が思いを語ることで、自分の生き方を見つめさせる。	5	個人
終末	5 感想のお互いの思いを話し合い、自分らしく生きることへの思いをあたためる。	○ 副読本巻末のケニアの難民少女の詩「わたしの夢」を紹介し、個性を生かし伸ばそうとする思いをあたためさせる。	10	一斉